

【日本国内における禁煙治療の現状】

2021年6月15日に、保険適用を受けた代表的な禁煙補助薬チャンピックス（製薬会社；ファイザー株式会社）の出荷が突然停止し、さらに自主回収されるという禁煙治療の重大な障害となる事態が発生しました。チャンピックスの一部のロットに、変異原性¹⁾が懸念される不純物N-ニトロソバニクレイン²⁾の混入が判明したためです。現在、世界的にチャンピックスの供給が停止しているため、禁煙治療薬全体の需給バランスが崩れ、もう一つの禁煙補助パッチ剤ニコチネルTTS（グラクソ・スミスライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社）も品薄となり、安定供給されない状況となっています。チャンピックス出荷再開見通しは、2022年後半以降となっています（ファイザー社発表 2021年11月15日付）。

チャンピックス	ニコチネル TTS
	
<ul style="list-style-type: none"> ニコチンを含まない飲み薬です 禁煙時の離脱症状だけでなく、喫煙による満足感も抑制します 禁煙を開始する1週間前から飲み始め、12週間服用します 	<ul style="list-style-type: none"> ニコチンを皮膚から吸収させる貼り薬です 毎日1枚皮膚に貼り、離脱症状を抑制します 禁煙開始日から使用、8週間の使用を目安に貼り薬のサイズが大きいものから小さいものに切り替えて使用します。 高用量の剤形は医療用のみです。

*一般用医薬品にもニコチンパッチがありますが、ここでは医療用のニコチンパッチについて説明しています。

1)変異原性：生物の遺伝情報（DNA）に不可逆的な変化を引き起こす性質のこと。細胞癌化の誘発因子として知られています。

2) N-ニトロソバニクレイン：ニトロソアミン類は肉や乳製品、野菜を焼き加工した食品などに含まれていることが知られており、通常我々の日常生活においてある程度摂取しています。ニトロソアミン類を長期に渡り許容範囲を超えて摂取を続けた場合、発がんのリスクを高める可能性があるとしてされています。

日本国内では、これまで、チャンピックスによる禁煙治療が主流で、ニコチネルTTSを用いた禁煙治療を行っている医療機関が少ない傾向がありました。理由は、禁煙補助薬を使用しない場合と比べて、禁煙補助薬チャンピックス使用で禁煙成功率は約2.3倍、禁煙補助剤ニコチネルTTS使用で禁煙成功率は約1.7倍と、チャンピックスの禁煙成功率が高いためです。このため、「禁煙治療薬を用いた禁煙診療」はチャンピックスの供給が再開されるまで、中止とする医療機関が多い事態になっています。

当院では、以前より、チャンピックスとニコチネルTTSの、各々の特徴・利点を念頭におき、患者さんに合わせた選択・処方を行ってきました。また、当院は院内処方を行っているため、チャンピックスの供給が停止している現在でも、当クリニックでは、ニコチネルTTSの供給を引き続き受けている状況で、ニコチネルTTSを用いた禁煙治療を行っております。

(2021年11月29日作成)